

現場だより	1-2
特集「SDGs宣言」	3
特集「BCP訓練」	4
受賞レポート	5
PLUS NEWS !	6



今年で20年目となる花壇造成活動。毎月1回行っている除草作業前に綺麗に咲いた花壇の前で記念撮影 ※撮影時のみマスクをはずしています(撮影:総務課 石澤 美翔)

現場だより

工事名 : ペンケオタソイ川砂防工事(補正・繰越)

施工場所 : 上川郡新得町

施工期間 : 令和3年3月31日～令和4年3月22日

発注者 : 十勝総合振興局 帯広建設管理部

請負者 : 西江建設株式会社

請負金額 : 354,585,000円(税込)

進捗率 : 68% (11月19日時点)

やまうち まさと

さいとう よしひと

現場職員 : 山内政人、斎藤嘉仁



17号床固工 施工箇所
右岸側は完了し、左岸側に着手



13号床固工 施工箇所
先行してほぼ完成



工事概要

本工事は、新得町のペンケオタソイ川流域における大雨や台風など異常出水時に発生する土石流や流木による土砂災害や浸水被害を防止するため、コンクリート堰堤、鋼製スリットを設置し、周辺に暮らす人々の生命、財産、公共施設などを守ることを目的に実施する工事です。

ペンケオタソイ川は、1級河川十勝川水系佐幌川へと続く河川で、平均河床勾配が6%を超える急流河川です。過去の大雨による被災のほか、平成28年8月の台風10号による豪雨では、ペンケオタソイ川の上流で土石流が発生し、下流域である新得町の市街地では家屋の浸水や同河川を横断する鉄道橋2箇所、町道橋3箇所の橋梁が被害を受けました。

この出水を受け、建設管理部では事業計画区間の床固工を7基から10基に増設するとともに、既設床固工の改良を推進し、当該工事では、17号床固工(堤高6.0m、堰堤幅員146.0m、コンクリート量4,453m³、貯砂量7,400m³)及び、13号床固工(堤高4.5m、堰堤幅員76.4m、コンクリート量1,441m³、貯砂量10,200m³)の2箇所を新設しています。

17号床固工・13号床固工はともにコンクリート堰堤本体工、コンクリート側壁工、水叩工、及び流木を止めるための鋼製スリット本体工で構成されます。13号床固工は昨年一部施工済の堰堤を引き継いで施工しています。

工事箇所下流に道立畜産試験場があり、取水時に影響が発生しないよう気を付けています。土砂掘削時の濁水流出を防止する処理施設を設置するとともに、濾過水の状況を確認しながら施工しています。また、JR本線が近接する工事現場のため、列車の運行に留意し、路線橋梁部と重機との距離をしっかりと確保しています。今後もJR関係者との打ち合わせ等を密に行い細心の注意を払って作業を進めたいと思います。

現場代理人

山内政人



YAMAUCHI MASATO

大変に感じること

現場代理人として河川工事を担当するのが初めてのことで、河川の仮締切や、流れの切替え等についてはとても苦労しました。また、河川の現場は降雨等による被害を受ける可能性があるため、雨量や増水に気を配りながらの施工も大変でした。

初めての経験ではありますが、先輩や現場従事者の意見を取入れ、日々勉強しながら安全に施工を進めています。

もっとも達成感を感じること

なにも無かった場所にコンクリートの砂防堰堤(土砂などをせき止めるためのダム)が完成した時は達成感がありますね。また、この堰堤が今後発生するかもしれない土石流の抑止に貢献するんだと考えると、とても感慨深いものがあります。

新入社員の様子

当初、この現場には2名の新入社員が配属となり切磋琢磨しながら働いていましたが、9月から1名が別の現場へ転属となったため、一人でも不安にならないよう心掛けています。通勤の車中で極力話しやすい環境を作り、自分の経験談なども話しながら、悩みなどを聞くようにしています。仕事には前向きに取り組んでおり、今後いろいろな経験を積むことで成長していけるので頑張っています。



齊藤工事課員

山内さんは気さくとても話しかけやすいので、どんなに小さな質問でも気兼ねなく聞ける上司です。私の目線に立って仕事を教えてくださるので、とてもわかりやすく、あかげ仕事を楽しんでいます！山内さんの仕事をみて「人柄の良さは仕事にも良い影響を与える」ということを学びました。自分も見習いたいです。

仕事のこだわりと目指す技術者像

安全第一であること、設計されたものを瑕疵なく発注者へ引き渡すことは、当たり前のことであると同時に最も大事なことです。ですので、何よりも一番にこだわって日々の仕事に臨んでいます。



▲仮締切と切替えの様子
写真中央の土嚢(どのおう)で河川を仮締切している。奥側に施工するため既に施工済の手前側に河川の流れを切替えている。手前側の施工中は奥側に水が流れていた。



▲ 施工前の様子



▲ 施工中の様子

色々な知識を身に付け、どんな立場の方とも対等に会話ができる技術者を目指しています。未熟さから自分に自信が持てていないことが多々あるので、少しずつ改善し、上司に安心して任せていただけるようになりたいです。

工事課 主任

休みの日の過ごし方

コロナ禍ということもあるのですが、休日は家族で買い物に行く程度です。たまに外食もします。先月までは、趣味の家庭菜園(スイートコーン、ナス、トマト。ピーマンとほうれん草は失敗…🍌)を子供たちと一緒にやり、子供が収穫したものに『まだ早いな』などと言って楽しんでいます。

たまに風呂掃除をして奥様に貢献しているつもりです。



西江建設について

建設業は肉体労働のいわゆる「3K」(きつい、汚い、危険)の業種という印象の方が多いと思いますが、今では重い物を運んだりスコップで掘ったりという事はほとんどありません。“誰もが働きやすい環境”を作ろうと業界・会社を挙げて「新3K」(給料が良い、休日が取れる、希望がもてる産業)というスローガンを提唱し、改善に取り組んでいます。

その中で、西江建設の給料は管内トップクラスを誇り、平成3年から完全週休2日制を導入、最先端技術も積極的に取り入れるなど、働き方改革にも取り組み、将来に希望の持てる会社です。是非、私たちと一緒に働きませんか！

平成16年入社

帯広工業高等学校出身

趣味
サッカー観戦
家庭菜園、ゲーム

特集「SDGs宣言」

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称で、2015年9月に国連で採択された2030年までの国際目標。「地球上の誰ひとり取り残さない」をスローガンに、持続可能な社会の実現を目指しており、経済・社会・環境などの分野で17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。



西江建設は持続可能な社会の実現を目指し、令和3年10月29日(金)付でSDGsを宣言しました。この宣言は、建設会社としてすでに取り組んでいる様々な活動や、これから更に取り組んでいく活動を、SDGsの主旨に沿って取りまとめたものです。今後も、発注者はもとより地域の皆様から信頼され、持続可能な社会の実現に向けて全社員一丸となって取り組んで参ります。

働きやすい職場環境の構築

役職員一人ひとりの能力向上を支援するとともに、ダイバーシティ経営と安心・安全な職場環境の確立を目指します。また、プライベートライフも充実できるよう、業務の効率化や働き方改革に取り組み、役職員の意欲と幸福度を向上します。

○これまでの取組

- ・ハラスメント相談窓口、賞罰委員会の設置
- ・「労働安全衛生計画」策定
- ・「北海道あったかファミリー応援企業」認定登録



◀福利厚生として「育児・介護休業制度」を制定。令和3年度は男性職員2名、女性職員1名が育児休業を取得しています。

○さらなる取組

- ・女性技術者、障がい者の積極的な採用
- ・働き方改革による時間外勤務の削減
- ・有給休暇、産休、育休などを取得しやすい環境整備



◀当社では2名の女性技術者が活躍しています。今後も積極的な女性技術者の採用と、女性も働きやすい環境づくりを推進します。



事業活動を通じた地球環境への配慮

インフラ整備を担う企業として、常に地球環境の保全及び負荷の低減を意識し、「誠実」な企業活動を通して、地域住民と共に人と自然の共生を図り、「未来へ美しい地球環境を引継ぐ」という使命を果たしていきます。

○これまでの取組

- ・工事現場における環境と生物への配慮と保護活動
- ・太陽光発電の設置
- ・ISO14001(環境)取得



水生生物▶

◀工区内に生息していた水生生物を保護し工区外へ移す様子。工事現場では、環境と生物に配慮した工法で施工し保護活動を行っています。

○さらなる取組

- ・工事現場における環境汚染の未然防止
- ・省資源、省エネルギーへの取組
- ・カーボンニュートラルへの取組



◀社有車として電力供給ができる車両(アウトランダーPHEV、ハリアーHV、プリウスHV)を配備しています。将来的には電気自動車を導入します。



法令順守と質の高い業務遂行による信頼性の確保

インフラ整備を担う企業として、コンプライアンスの徹底や安全運転への心掛けを通じ、社会的責任を果たします。また、常に技術と経営の向上を追求し、高品質かつ安全な施工を通じて、最上の物を納めることを目指します。

○これまでの取組

- ・CSR活動の積極実施
- ・迅速な社内「報・連・相」体制の構築
- ・ISO9001(品質)取得



◀今年で2年連続の優秀交通安全事業所表彰銀賞受賞。今後も社員全員で安全運転に努め、金賞受賞を目指します。

○さらなる取組

- ・「優秀交通安全事業所表彰」での金賞受賞
- ・BIM/CIMや最新技術の積極導入



◀今年度、大型測量用ドローンを導入。今後も屋外での作業時間を短縮しより高精度で効率的な作業ができるよう積極的に最新機器・技術を導入していきます。



地域に貢献し必要とされる企業の実現

地域に根差した建設事業者として、安心・快適に住み続けられる地域づくりに貢献してまいります。また、事業継続計画の運用により災害時にいち早く対応できる体制を整え、発注者や地域住民からの信頼や満足の上を目指します。

○これまでの取組

- ・工事現場の地域貢献活動
- ・地域美化活動(河川清掃、近隣の花壇造成)
- ・「事業継続計画(BCP)」認定取得



◀今年で13年目の十勝川河川清掃(上)と20年目の花壇造成(下)。地域住民や協力会社と共に地域美化活動を継続して取り組んでいます。

○さらなる取組

- ・現場見学会/インターンシップの積極開催
- ・災害復興ボランティア
- ・「事業継続計画(BCP)」のブラッシュアップ



◀高校生が参加するインターンシップの様子。高校生～大学生を対象とした、1DAY・5DAYインターンシップを今後も積極的に開催します。



特集「BCP訓練」

11月4日(木)、十勝沖で発生した震度6強の地震災害と津波災害を想定したBCP訓練を行いました。

「第1部 安全確保」「第2部 連携確認」「第3部 備品周知」「第4部 役割・手順等確認」の4つの内容で構成し、合計3時間に及ぶ訓練に、災害対策本部、総務班、業務班、対外復旧支援班に分かれて全職員が参加しました。

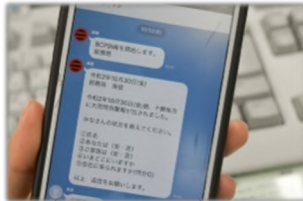
第1部 安全確保



▲地震により正面玄関が損壊したと想定し、普段は使用しない北側非常口から避難。本社で勤務中だった役職員全員が避難しました。



▲避難先の駐車場で所属部署ごとに整列。避難が完了した職員全員の無事を確認しました。



▲コミュニケーションアプリ「LINE」を活用した安否確認。総務班は現場・支店職員を含む全役職員に安否確認を配信し、集計・報告を行いました。

第2部 連携確認



▲リモート会議システム「Zoom」を活用して、本社と札幌支店の役員9名・事務職員3名による災害対策本部を設置。全社への指示手順と行政機関との連携手順を確認。それを受けて、業務班による工事現場の被害状況把握手順、対外復旧支援班による人員・資機材の確保と災害出動手順を確認しました。



▲現在稼働中の現場とZoomを接続し、被害状況の確認、現場従事者の安否確認の報告を行いました。

第3部 備品周知



▲ガレージに保管している国道巡回装備品やポータブル発電機、太陽光発電機、簡易トイレ等の使用方法や仕組みについて説明。2～3名の参加者が操作・組立を体験しました。



▲ポータブル発電機は約4時間の使用が可能。力の弱い職員でも簡単に起動させることができます。



▲河川点検用救出用品・機材を周知。今回の訓練で想定している地震・津波災害に限らず、大雨による増水等が起こった場合にも役立てられます。

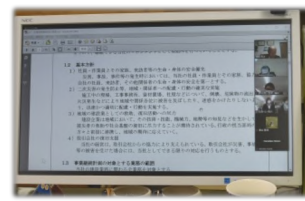


▲3階倉庫には飲料水や缶詰パン、カレー等の備蓄食料を保管。

第4部 役割・手順等確認



▲Zoomを用いて、BCP計画書の読み合わせを実施。災害時における職員の役割や対応手順、重点ポイント等を労務安全課 折笠課長より説明を受け、緊急時の対応について共有しました。



▲各課ごとに集まり、Zoomで読み合わせに参加する職員の様子。

受賞レポート

工事成績優秀企業表彰

10月4日(月)、令和3年度北海道開発局工事成績優秀企業認定書授与式が執り行われました。当社は昨年に続き、2年連続での認定となります。

この認定は、過去2か年度に完成した一般土木工事等の実績を3件以上有する企業で、工事成績評定の平均点が一定以上(今年度は平均80.0点以上)の企業が認定されるもので、当社は平均80.4点でした。これに満足することなく、これからも引き続き高品質な施工を続け、継続的に工事成績評定優秀企業認定を受けられるよう、社員一丸となって取り組んで参ります。



令和3年度
工事成績優秀企業認定書授与式

▲(右下)橋本局長(中央)西江社長
(左下)坂場事業振興部長
(右上)鈴木工事管理課長
(左上)桑島事業振興部調整官

感謝状

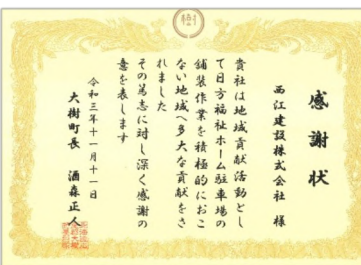
11月11日(木)、帯広広尾自動車道 大樹町 基線改良工事<現場代理人 林睦寛>では、帯広広尾自動車道の工事を請け負う5社の連絡協議会の地域貢献活動として、福祉施設駐車場の舗装作業を行いました。

緊急避難場所としても利用される同施設の駐車場内は痛みが激しくへこみ等が点在していたため、それらの損傷箇所を舗装し、再整備しました。

この活動が施設の利便性向上に繋がったとして、大樹町 酒森正人町長より感謝状を頂きました。



工事課 工事長
林 睦寛



▲(左)西江常務取締役
(右)酒森町長

感謝状

11月16日(火)、十勝川改修工事の内 芽室太築堤河岸保護工事<現場代理人 佐藤如枝、監理技術者 村田高広>および畑地帯大正北2地区61工区<現場代理人 喜多仁志>では、地域貢献活動として芽室小学校敷地内の舗装工事を行いました。

給食搬入口の段差を解消するため、33㎡のアスファルト舗装を行いました。この活動が、校内環境の改善に貢献したとして、山川修校長より感謝状を頂きました。



工事課 主任
佐藤 如枝



工事課 担当課長
村田 高広



工事課 工事長
喜多 仁志



▲左から佐藤主任、山川校長
西江常務取締役、喜多工事長

感謝状

11月18日(木)、一般国道241号 音更町 平原大橋橋脚補強工事<現場代理人 鈴木康貴、監理技術者 田中肇>では、地域貢献活動として帯広第一中学校の校舎北側にある、高木の剪定と芯止めを行いました。

枯れ葉が近隣の住宅に落ちてしまうことや、冬場は樹の日陰となる道路が広範囲にわたって凍結する危険があったことから、30本の樹木に剪定・芯止めの作業を行いました。

この活動が教育環境の充実に寄与したとして、帯広市 米沢則寿市長より感謝状を頂きました。



工事課 課長
鈴木 康貴



ISO管理室 課長代理
田中 肇



▲左から鈴木課長、西江常務取締役、米沢市長、宮脇営業部長

PLUS NEWS!!

おびひろ動物園の動物たちに贈り物

十勝川改修工事の内 芽室太築堤河岸保護工事
＜現場代理人 佐藤如枝、監理技術者 村田高広＞および
十勝川改修工事の内 川西築堤河岸保護外工事
＜現場代理人 水上陽出明＞では、現場で伐開したヤナギ
をおびひろ動物園に提供しました。

同園では、ニホンザルやアメリカビーバー、ポニー等
の餌となるヤナギを飼育員が伐採し調達していま
した。しかし冬場は貯蔵するのに大変苦労していたそう
です。そこで、これまで工事のために伐開していた
ヤナギを役立ててもらおうと、すぐ食べられる餌となる
新鮮な枝葉と、冬に向けた貯蔵用の樹皮(幹)を
贈ることとしました。

9月と10月に4トン、さらに貯蔵用として年内にあと
4トン、計8トンを搬入する予定です。当社では、今後も
この活動を継続していきます。



スケジュール ＜12月～令和4年2月＞

- 12月28日(火) 仕事納め
- 1月 5日(水) 仕事始め・年頭初頭集会
- 2月11日(金) 建国記念日のため休業

- 12月29日(水)～1月4日(火) 年末年始休暇
- 1月 7日(金) 新年会
- 2月23日(水) 天皇誕生日のため休業



PLUS NEWS!!

当社社員の活躍をはじめとする、西江建設の最新ニュースをお伝えます。

西江通信 通巻10号達成!



読者の皆様と信頼を深め合い、親しみを感じて
もらいたい。そして西江建設をもっとたくさんの人に
知ってもらいたい。

そんな想いから、社内外のコミュニケーションツ
ールとして生まれた季刊社報“西江通信”は、今号を
もって通巻10号を達成することができました!

令和元年の創刊からおよそ2年半が経ちますが、
来社された方が社報を持ち帰る姿を見かける度、
未だにドキドキと読んでもらえる嬉しさがこみ上げて
きます。

これからも初心を忘れず、「西江通信、見たよ!」
という言葉から会話が生まれるような社報づくりを
目指し、精進して参ります。

様々な形で西江通信の発行にお力添えを頂いた
皆様、そしていつもご覧頂いている皆様に、この場
を借りて感謝申し上げます。

これからも西江通信を
よろしくお願い致します!

バックナンバーは
こちらのQRコードから
ご覧いただけます

